

平成28年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

## 集まれ！海のお宝発見隊 実施報告書

【趣 旨】 近隣の瀬戸内海岸での生物観察・調査からスタートし、瀬戸内海域へフィールドを広げ、環境問題について考えていく体験的・問題解決的な環境学習を実施する。これらを通して、いま自分達に何ができるかを考え、環境保全・保護に配慮した積極的な行動がとれる意欲・態度を養う。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【共 催】 江田島市教育委員会

【期 日】 平成28年8月16日(火)～8月18日(木) 2泊3日

【実施会場】 国立江田島青少年交流の家及び荒代海岸周辺  
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」  
瀬戸内海海域

【対 象】 小学5・6年生

【参加者数】 24名

【講 師】	広島大学大学院生物圏科学研究科 広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」 大柿自然環境体験学習交流館 国立江田島青少年交流の家	准教授 橋本 俊也 職員 館長 西原 直久 企画指導専門職
-------	--	--

### 【企画・運営のポイント】

- (1) 瀬戸内海の自然環境を生物の多様性の観点から捉えるために、海辺の生物観察の指導経験豊富な大柿自然環境体験学習交流館館長の西原直久氏（理学博士）に指導を依頼し、江田島の海を活用して調査・実習を行う。また、瀬戸内海の自然環境についての理解を深め、問題意識を高めるために、瀬戸内海の環境に精通する広島大学大学院生物圏科学研究科橋本俊也准教授による講義を行い、瀬戸内海の環境に関する情報を収集するために、広島大学附属の練習船「豊潮丸」に乗船し、海泥や透明度等の海洋観測に取り組む。
- (2) 環境に対する関心を高め、自然環境保護・改善に対する意欲や態度に結び付けるために、参加者一人ひとりが、紹介したい瀬戸内海の自然環境“海のお宝”を見つけ、お宝発見隊活動報告会で発表することを課題とした。また、その過程で意見交流をすることで、各自の理解を深めることを促した。

【活動の実際】

16日（火） 1日目	17日（水） 2日目	18日（木） 3日目
9:30 受付	6:40 起床	6:40 起床
10:00 開講式 オリエンテーション	7:10 つどい, 清掃, 朝食	7:10 つどい, 清掃, 朝食
10:30 自己紹介, 班編成, アイスブレイク	9:30 「海のお宝を発見しに行こ う③～豊潮丸に乗って～」	8:40 退所点検
12:00 昼食・休憩	15:00 交流の家着・休憩	9:00 「お宝発見隊の活動報告 に向けて②」
13:00 「海のお宝を発見しに行こ う①～達人といっしょに～」	15:30 「今日発見したお宝をま とめよう」	10:00 「お宝発見隊の活動報告」
16:00 夕食・休憩	17:00 つどい, 夕食, 入浴	11:30 閉講式
18:30 「海のお宝を発見しに行こ う②～達人といっしょに～」	19:00 「お宝発見隊の活動報告 に向けて①」	12:00 解散
20:30 「今日発見したお宝をま とめよう」	21:30 就寝	
21:00 入浴		
21:30 就寝		

オリエンテーション・アイスブレイク・班編成



「海のお宝を発見しに行こう①・②～達人といっしょに～」：海辺の生物観察・ウミホテル観察



「海のお宝を発見しに行こう③～豊潮丸に乗って～」：海洋観測



「今日発見したお宝をまとめよう」・「お宝発見隊の活動報告に向けて①・②」



## 「お宝発見隊の活動報告」



### 【成果と普及】

- (1) 今まで見たことのない生物を見つけたり触れたりすることは、子供達のモチベーションを高めるには最高の体験であった。また、専門的な知識を持つ西原館長の説明により、その生物等がどのような特徴をもっているか等も合わせて収穫できたことは、“海のお宝”を見つける上で大変役立った。さらに、海辺の観察では、生物だけでなく、植物やそれらを取り囲む環境にも参加者の意識が幅広く向くように、西原館長と事前に打合せを行ったおかげで、実際にそれらを“海のお宝”として発表した子供が、23人中5人いた。
- (2) 初日に多くの生物や神秘的なウミホタルの光を見て、“きれいで生物がたくさん住む瀬戸内海”を意識した子供達が、豊潮丸での海洋観測によって、瀬戸内海的环境が決して楽観視できる状況ではないことを理解することができた。問題意識をもつことで、これからの瀬戸内海の内環境について、自分にできることを考えるきっかけとなった。
- (3) 懸命に活動報告会の準備をする子供達の様子から、最終日に向けての意識付けが図れたことがうかがえた。報告会では、それぞれが自分の言葉で発表することができた。準備中に意見交流を盛んにしたグループの子供ほど、自信をもって発表でき、報告会後の質問の時間では、保護者からの質問に、自分の意見を交え回答することができた。これは、自らが体験し学んだからこそできることであり、改めて体験することの重要性を確認することができた。
- (4) 23人分の事前と事後のアンケートを比較すると、16人が「瀬戸内海的环境に対する興味関心」が増し、14人が「瀬戸内海的环境と自分との関係」をより強く感じるようになった。「瀬戸内海にはお宝が多いか」の質問には、15人が上昇した。12人が「瀬戸内海的环境を守るためにできること」があると、より強く思うようになった。全ての項目で評価が向上したことから、子供達の瀬戸内海的环境についての意識や意欲が高まったとすることができる。
- (5) 本事業での成果について、教育関係のメディアに寄稿したり、広島大学のホームページに掲載していただいたり、大柿自然環境体験学習交流館と情報を共有したりして、利用団体への支援に役立てていく。

### 【今後の課題】

- (1) 学習効果を高めるために、講師、関係者との事前の打合せに早い段階で入るようにする。そのためには、年度当初に担当が事業の内容について検討し、共通理解を図る必要がある。
- (2) 活動報告会の準備の時間が不足していると感じた。また、子供達のアンケートに、活動報告会の準備時間がもう少しあればよかったという記述があったことから、この時間を増やすことを検討する。あわせて、活動報告会の時間を伸ばし、一人ひとりの持ち時間を増やすことも検討する。
- (3) 広報の期間が短かったためか、倍率は2倍に届かなかった。次年度以降は、広報期間が長くとれるように、チラシの配布時期を可能な限り早くする。